

大修理ができたらどんなに助かることか。私たちもぜひ協力させていただきたいと思います。」

喜びいさんで帰りかけた豊助に、宗吉は、北滝沢きたたきざわの肝煎きもいりの古川ふるかわ伊喜右衛門いきえもんもたずねてみたらよい、と語りました。

翌日よくじつ、伊喜右衛門をたずねた豊助は、さらに大きな希望がわいてきました。

伊喜右衛門はこう言ってくれたのです。

「この近くでは飯盛山のまわりの用水路が、大雨で水かさが増ますたびに土手がくずれてしまい、ほとんどの水が下の不動川ふどうがわに落ちてしまうのです。そのたびに修理をしていますが、どうにもなりません。私たちも協力します。何なりとお申しつけください。」

ここで豊助の心はきまりました。

第一に、戸との口用水路くちみずろの幅はばを広げて深く掘ること。第二に、飯盛山に洞門どうもんを